

第1回小郡市幼児施設審議会議事録

日 時	令和6年11月27日（水）14：00～15：30
場 所	小郡市総合保健福祉センターあすてらす 2階 視聴覚室
出席者	<p><委員></p> <p>会長：脇田委員、副会長：和田委員</p> <p>委員：山下委員、大淵委員、酒村委員、梶原委員、秋本委員、中川委員、組坂委員、林委員</p> <p><事務局職員>今井子ども・健康部長、成富保育所・幼稚園課長、鹿毛保育支援係長、神代こども家庭支援課長、山口こども家庭支援課長補佐、荒木こども家庭係員</p> <p><傍聴者> 3名</p>
資 料	<p>第1回小郡市幼児施設審議会会議次第</p> <p>資料1 小郡市の人口推計と保育所・幼稚園をめぐる課題</p> <p>資料2 幼児施設の現状</p> <p>図表1 幼児教育・保育施設</p> <p>図表2 保育所（園）等一覧表</p> <p>図表3 小郡市内幼児施設位置図</p> <p>図表4 市全体の就学前児童数の推移</p> <p>図表5 保育所申し込み率</p> <p>図表6 市内認可保育所の園児数の推移</p> <p>図表7 市内幼稚園の園児数の推移</p> <p>図表8 待機児童数の推移</p> <p>図表9 支援が必要なこどもの状況</p> <p>図表10 市内子育て支援センターの状況</p> <p>図表11 公立保育所・公立幼稚園の状況</p> <p>資料3 幼児施設の課題</p> <p>小郡市幼児施設審議会条例</p> <p>小郡市幼児施設審議会委員名簿</p> <p>諮問書</p>
会議内容	
1	委嘱状交付
2	<p>市長あいさつ</p> <p>皆様こんにちは。国は少子化の危機感から「こども家庭庁」を発足し、こどもを中心にした子育て支援を目指しています。小郡市におきましても1人1人のお子さんを大切にしながら、こどもや子育て世帯の支援体制を構築しているところです。このような中、皆様方におかれましては、小郡市の公立保育所・幼稚園のあり方について忌憚のないご意見をお聞かせいただき、ご審議いただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。</p>

3 委員紹介

4 会長・副会長選出

会長：脇田委員 副会長：和田委員

5 諮問

市長から会長へ諮問書を渡す。

6 審議

(1) 小都市の人口推計と保育所・幼稚園をめぐる課題

資料1により事務局より説明

(2) 幼児施設の現状

資料2により事務局より説明

《委員》定員数と充足率の話があったが、定員数はどうやって決めているのか。

《事務局》定員数は園の規模に応じて各園が設定し、県の認可を受けることとなります。その際、保育士配置基準と園児1人当たりに必要な面積基準を満たす必要があります。定数を5年連続して120%超えると給付費のペナルティがあります。

(3) 幼児施設の課題

資料3により事務局より説明

(4) 意見交換・質疑応答

《委員》今回の審議については公立の保育園・幼稚園に特定していいのか。

《事務局》審議会における諮問事項は、公立保育所、公立幼稚園、公立保育所の子育て支援センターのあり方についてです。

《委員》図表6、図表7の園児数の推移には認定こども園は含まれているのか。

《事務局》認定こども園の保育部分については図表6に、幼稚園部分については図表7に含まれています。

《委員》諮問事項を議論する際に、財源が必要になる提案も出てくると思うが、どのように考えればいいのか。

《事務局》審議会では、課題解消のための対策については財源に関わらず提案をいただきたいと思います。審議会から答申をいただいたうえで、市として実現可能な具体的対策を検討する際に財源について検討したいと考えています。

《会長》答申については、様々な項目についてそれぞれ委員からの意見や提案を列記する形でよいのか。

《事務局》答申については、いろいろな視点から様々な対策について提案をいただきたいと思います。様々な選択肢を提案いただくことによって市の検討の幅を広げていきたいと思っています。

《委員》課題として保育の質の向上とあるが、量の不足もある。図表11で保育所の超過分を幼稚園で受け入れることができれば問題は解消するのではないか。今後、保育と幼児教育の統合化や幼稚園と保育所の分離について市の意向があれば教えてほしい。

《事務局》現時点で、市として公立保育所・幼稚園における方向性は持っていません。

《委員》保育所と幼稚園の違いとして園の違いがわからないので、何がニーズの違いに反映されているのかわからない。

《事務局》保育所と幼稚園の運営上の違いについて資料を作成し、次回審議会で提示させていただきます。

《委員》保育士を確保することは難しい。限られた人数の中で保育の質をどうやって高めていくのか。

《事務局》保育士確保は非常に難しい状況があります。現在、小郡市がどのような保育士確保対策を行っているのか、課題も含めて資料を作成し、次回審議会で説明させていただきます。

《委員》子育て支援センターは何ヶ所かありますか。その利用状況はどうですか。

《事務局》子育て支援センターの利用状況について資料を作成し、次回審議会で提示させていただきます。

《委員》子育て支援センターのあり方を検討する際に、公立だけで考えていくことは難しいので公立の資料だけで検討してもアイデアも出にくくなってしまう。私立の資料もあったほうがいいのではないか。

《事務局》次回、子育て支援センターの利用状況の資料に、私立の子育て支援センターの特色ある取り組みについても参考資料として情報提供させていただきます。

《委員》課題がたくさんあるが一番優先度の高い課題は何か。

《事務局》市としては、児童発達支援に係る保育現場での支援体制の充実とインクルーシブ保育の導入について課題と捉えています。また待機児童対策や保育の質の向上を目指していくときに保育士確保の問題について大きな課題だと考えています。

《委員》保育士確保については私立の保育園も公立も同じ状況にある。

《委員》小郡幼稚園の送迎バスはなぜ無くなったのか。

《事務局》小郡幼稚園の送迎バスは、三国幼稚園を一体的に統合する際に三国幼稚園に在籍していた在園児が卒園するまでの時限的措置として運行しました。

《委員》保育の質の向上のためには保育士がこどもに向き合う時間を確保することが一番大事で、デジタル化やICT化によって保育士の負担軽減を図ったり、事務的作業については事務員を配置する、献立を作るための資料作成は専門家に任せるなどの対策が必要ではないか。限られた人数の中で保育の質を高めるためには、保育以外の業務を分担する人材を確保することもできるのではないか。

(5) その他（次回スケジュールの説明）

《委員》資料は事前にいただきたい。

《事務局》次回は事前に資料の配布をさせていただきます。

7 閉会のあいさつ

これをもちまして第1回小郡市幼児施設審議会を閉会させていただきます。